2023 年度（令和５年度）社会福祉協議会研修で宮城県にいってきました。見聞きしたこと，感じたことをまとめてみました。

東 日 本 大 震 災 か ら 学 ぶ

社会福祉協議会副会長　吉川信政
（福山市北部市民大学）

日　程　　；　２０２３年（令和５年）９月 26 日～27 日
参加者　　；　福祉協議会及び参加団体 計 24 人
さあ出発です　；　朝６時 40 分集合　７時８分発東京行き「のぞみ」78 号 12 時 56 分に仙台駅に到着。プラットフォームに日本三景交通社のガイドの佐々木さんが出迎え，一緒の列車で石川県立寺井高校の修学旅行の生徒が到着です。

【初日】

<u>岩沼市総合福祉センターの会議室で迎えの行事及び研修会</u>

行事　岩沼市社福会長　森繁男さん
　　挨拶　　ハード面は復興を成し遂げたと思っている。
　　しかし，心の傷は残っている。
　　福山市社福会長　藤井徹太
　　自己紹介

研修　・東日本大震災後の岩沼市
　　・岩沼市災害ボランティアセンター，復興支援センターの取組について

質疑応答

<u>千年希望の丘の見学</u>…将来にわたって持続可能な街でありたいと願って，数々の思いや教訓を生かして，先進的な復興モデル実現の場として整備されたもの。

語り部ボランティア　渡邊良子さんの説明

<u>ホテルにおいて交流会</u>

福山市社福会長　藤井徹太
岩沼市社福会長　森繁男さん　自己紹介（トーヨータイヤ　専従
　　市議会議員　４期目は議長）
　　宮城のお酒２本（一ノ蔵と会長の友人が
　　造ったお酒　計２本）
吉川　乾杯の音頭
※福山市社福からいった青山さんも同席

【二日目】　９時ホテルを出発

<u>震災遺構</u>

仙台市立荒浜小学校を見学

荒浜小学校は

当時の全校児童数は 91 人　屋上付の４階建て鉄筋コンクリート造り

地域は

仙台市中心部から約 10 キロ離れた太平洋沿岸部に位置している。海岸線にそって歴史ある貞山堀があり，周囲に約 800 世帯 2,200 人が暮らす町で，学校は海岸から約 700m 内陸に位置している。

４地域になっていて，古くからある玉浦東，玉浦西，玉浦北，そして新しく開発された玉浦新町からなっている。地震対応の避難訓練はしていたが，津波は来ないという思い込みがあって，津波対応の避難訓練はしていなかった。とくに二日前にも大きな地震があったけれど津波はきていなかった。

建物の様子

２階のベランダの鉄の柵の部分は折れ曲がったりコンクリートから外れていたりして衝撃の激しさが一目瞭然であった。２階への階段踊踊り場は写真等からおおくの家財道具などのがれき類でいっぱいだった。それらのがれきは片づけられているが，床のタイルや壁の様子が当時の状況を伝えてくれる。

なお，津波は地震発生の２時 46 分からおよそ１時間 10 分後の３時 55 分に学校に押し寄せてきて，２階の教室が 40 センチ程度浸かったそうだ。

映像「3.11　荒浜小学校の 27 時間」ガイドの説明入りで視聴

- 当時の校長先生，教頭先生そして町内会長などへのインタビューと消防ヘリなどの映像を約 17 分にまとめたもの。

【吉川の記憶に残ったこと】

- ２時 46 分，１年生は下校しており，２年生は校門のところで先生は児童を見送ったばかり。地震を感知して皆を呼び返して校庭の中央部に集めた。他の学年も終わりの会や授業，６年生は一週間後迫った卒業式の準備などの時間帯で校内にいた。
- 地震発生　震源地は三陸沖（牡鹿半島の東南東 130㌔）

…岩沼市の真東

深さは 24㌔

地震の規模　　マグニチュード 9.0

震度　　最大震度７

岩沼市は震度６弱

約２分間の強い揺れ

・校長先生は校長室のある２階で校庭の様子を見て，近くのハンドマイクで上に上がるように指示。教頭先生には，地域住民の避難場所を各地区ごとに教室を割り振って用意するように指示。
・教頭先生は運動場に集まり始めた地域住民に校舎に入るように怒鳴るが，住民は動こうとしない。
・停電になっていて情報が取れない。消防団の運転する消防車から 6mの津波が来るから避難するようにという拡声器の声が聞こえ，校長，教頭先生は状況を把握する。教頭は普段開けていない屋上の鍵を職員室から持ち出して屋上に上がれるように準備をした。
・校舎の上の部分からは海から黒い壁のようなものがせまっていて，建物に避難するよう大声で呼びかける。
・玉浦新町地区は，地震の時は小学校に避難することになっていたが，学校まで移動出来にくい高齢者などは，訓練では近くの公園に避難することもしていた。大震災当日も近くの公園に避難している人が 20 人程度いて，それを聞いた地域役員はそこに迎えに行ったそうだ。その後の状況は不明。
・津波は来ないと思い込んでいた高齢者夫妻に避難を促したが，結局聞き入られなくて亡くなってしまった人もいた。
・15 時 55 分ごろに津波到達　真っ黒くて家や家財道具，電化製品，車などありとあらゆるものが流れてくる。
・児童，地域住民，教職員合わせて 320 人が３階４階屋上に避難した。
・18 時頃？からヘリコプターで救助。一回に２人から３人ぐらいしか搬送できない。一度児童を運んでいくとなかなかヘリコプターが帰ってこない感じがした。児童を全員救助できたのは次の日の朝だった。
・住民の人は，次の日に水が引いてから消防団の人とがれきをかき分けてやっと避難できた。
・児童や住民が全員避難したあとで，町内会長と校長先生が最後に学校から出ることができた。
・最後の感想として，体育館に児童を避難させなくてよかったとあった。どうも訓練の中に体育館への避難は想定していなかったようだ。

「閖上の絆」のガイドの話…岩沼市立閖上小学校と中学校のことを中心に話があった。
・閖上は，福山市の救助隊の第一陣が入った地域。
・閖上中学校の亡くなった生徒の保護者が中心となってできたグループ。亡くなった生徒が生きた証を残したい，そして自分たちのようなつら

い思いをしてほしくないという思いを持って作られたグループのように受け止めた。

- ガイドされた方は，当時中３，中１，小２の母親。当日は中学校の卒業式が行われ，その時刻は公民館で謝恩会が行われていた。
- 揺れがあって，長男と一緒に家に帰ったら父親がいない。小学生の子供を迎えに小学校に行ったが帰ってこない。母子３人で小学校に向かい，小学校に着いたら校舎の上に父親を見つけたが子供は見えていない。小学生は体育館に多く集まっていた。ほとんどの人が津波のことは考えていなくて，子どもを渡してほしいと体育館に移動していた者が多かった。津波を察知した父親に言われて車の中の中学生２人を校舎に行かせ，小学生の子供を探しに体育館に行ってみつけたが，津波のことを知った先生の機転で児童と保護者はあらゆる階段をつかって校舎に上がって助かった。
- 昔，漁師が漁に出るかどうか天候を見定める高さ 7m？の日和山（ひよりやま）があるが，その傍にある石碑に津波注意の文章が刻まれているが全く知らなかった。日和山を超える津波が来たが，8.4mの高さだったと言われている。ここに生えている古い松に傷がついているので分かる。

<u>この２日間の一番の学習</u>

① 津波が来たら「てんでんこ」
　　まず自分で自分の命を守るために逃げる。
　　何かを忘れたとか，何かが気になるといって戻ると言うことは絶対にしない。

② 現場には情報が入ってこない。携帯ラジオが一番確実。

③ 避難訓練は最悪を想定して実施のこと。

④ 震源に近かった地域でも津波が来るまで１時間かかっている。
　津波は海岸から４㌔ほどの内陸に達している。１時間で４㌔以上海岸から離れる。または，３階以上の建物に避難する。

⑤ 川の決壊，山の土砂崩れなど地域にあった避難の仕方を考える。